

こもり堂前に全長約二・三メートルほどの劔が対になって立っている。刃の長さだけでも一・五五メートルある。これは奉獻したたたくさんの劔を、明治二十八年八月三日と銘があるから、その頃まとめて、会津若松市村木町の星野鋳物工場で鋳造したものである。「治工星野宗七 藤原重智」とみえる。

御堂内の糸まりなども、今では民芸品になっているが、径三六センチもある大きなもので珍しい。

付 文化六年風土記より

両 堂

昔此村に不動堂と太子堂あり。因て二堂村と云。寛文中(一六六一—一六七二)改て今の名とせり。府城の西南に当り、行程一里十五町、家数十二軒、東西五十四間、南北十三間、四方田圃なり。東一町三十間、西二町、南一町十五間、共に小松村の界に至る。其村は未申に当り四町三十間余、北二町二十四間、柏原村の界に至る。其村まで六町三十間。

○水利 思いぼり堰、下小松村の方より来り、田地の養水となり、柏原村の方に注ぐ。

○寺院 不動堂、境内東西十二間、南北十間、免除地。村北三十間余にあり、草創の年代詳ならず。不動長一尺八寸、座像古仏なり。古木繁陰し、境地ものふりたり。府下千軒道福証寺是を司る。

○古蹟 西堂寺跡、不動堂の西にあり、真言の道場にて本尊太子の背に延文二丁酉年(一三五七)三月十日檀主小松金家住人法心妙円二人也と書付ありしと云。延宝三年(一六七五)本寺なきに因て廃せり。後太子の像も火災にかかり今はなし。旧事雜考に西堂寺を宝幢院と記す訛れり。

○褒善 善右エ門、人となり忠実にして節儉を守り、家内昵く、村中にも親く、窮民を憐むこと大方ならず。毎年公納の頃に至れば、日夜相謀て一村の勞を我身一つに引うけて、貢物より作事の人夫出すことなどは、聯も滞ることなきは、皆彼が風にならば、教を守るゆゑなり。春耕より秋収に至るまで、みづから拍子木を撃て田野をめぐり戒めければ、一村の者皆父母の如くに思いけり。常に子弟を集めて、我等飢寒の患なく、家族を養ふこと、領主の厚き恵なれば、等閑に心得べからず。互に耕作の事をはげみ、